皮膚科学講座

A 欧 文

A-a

1. Tanaka Y, Delaporte E, Dubuquoi S, Gounni AS, Porchet E, Capron A, Capron M: Interleukin-5 messenger RNA and immunoreactive protein expression by activated eosinophils in lesional atopic dermatitis, J Invest Dermatol, 103: 589-592 (1994)
2. Tsukazaki N, Tanaka K, Irifune H, Yoshida H, Watanabe M, Ohgami T, Nonaka S: Relationship between porphyria cutanea tarda (PCT) and viral hepatitis. , J Dermatol, 21(6): 411-414 (1994)
3. Hirose R, Hori M, Shukuwa T, Udono M, Yamada M, Koide T and Yoshida H: Topical treatment of resistant warts with glutaraldehyde. , J Dermatol, 21(4): 248-253 (1994)
4. Gounni AS, Lamkihioued B, Ochiai K, Tanaka Y, Delaporte E, Capron A, Kinet J-P, Capron M: High-affinity IgE receptor on eosinophils is involved in defence against parasites. , Nature, 367: 183-186 (1994)
5. Verlander PC, Lin JD, Udono MU, Zhang Q, Gibson RA, Mathew CG, Auerbach AD: Mutation analysis of the fanconi anemia gene FACC, Am J Hum Genet, 54: 595-601 (1994)

B 和 文

B-a

1. 岡田茂、前田啓介、山本憲嗣、田中洋一、阿南貞雄、吉田彦太郎: アトピー性皮膚炎患者に対する Dermatophagoides-farinae (Df) 精製抗原 (Der f I, Der f II, Der f III, 120KD)を用いたパッチテスト成績、日皮アレルギー、1(2)：343-349 (1994)
2. 松下泰三、岡田茂、竹中基、前田啓介、田中洋一、吉田彦太郎：スリンダク（クリノリル®）による固定薬疹の1例、日皮アレルギー、1(2)：292-295 (1994)
3. 芦塚文美、広瀬寮二、清水和宏、田中洋一、鳥山史：放射線療法が著効した Merkel cell carcinoma、西日皮膚、56(1)：67-74 (1994)
4. 広瀬寮二、小出隆、宿輪哲生、山田正男、一ノ瀬弥久：最大径20㎜を超える基底細胞癌の切除範囲の検討、Skin Cancer, 9(2)：79-83 (1994)
5. 田中敬一、広瀬寮二、吉田彦太郎、野中薫雄、守家泰一郎：Lymphomatoid granulomatosis の1剖検例、西日皮膚、56(1)：54-60 (1994)
6. 西本勝太郎：新しい抗真菌剤によって皮膚真菌症とくに足白癬の治療成績はどれくらい向上したか、日本真菌学会雑誌、35：335-339 (1994)
7. 長崎爪白癬研究班（西本勝太郎、吉田彦太郎、入船弘子、田中敬一、豊島弘行、矢野光政、鳥山史、村山史男、山本憲嗣、前田啓介、広瀬寮二、小出隆、塚崎直子）：爪白癬に対するボレークリーム密封療法の使用経験、西日皮膚、56(5)：1072-1078、1994
8. 前田啓介、吉田彦太郎：牛乳の接触蕁麻疹を合併したアトピー性皮膚炎の例、アレルギーの領域、1(6)：730-733 (1994)
9. 竹中基、吉田彦太郎、西本勝太郎：リンパ管型 Mycobacterium chelonae 皮膚感染症、西日皮膚、56(4)：719-723 (1994)
10. 篠田英和、吉田彦太郎：parvovirus B19 感染症—とくにその非定型疹について—、皮膚病診療、16(6)：489-492 (1994)
11. 篠田英和、西本勝太郎、本間喜蔵：Trichophyton violaceum による爪白癬を含む家庭内感染症、日本医真菌学会雑誌、35(2)：179-186 (1994)
12. 篠田英和、吉田彦太郎：成人にみられた伝染性紅斑22例の臨床的検討、臨皮、48(1)：31-36 (1994)
13. 篠田英和、西本勝太郎、本間喜蔵：同一家族内に6年間にわたって感染、再発を繰り返した Trichophyton violaceum 感染症、西日皮、56(1)：27-33 (1994)
14. 吉田彦太郎、金子史男、中山秀夫、日野治子、富澤尊儀、池澤善郎、大城戸宗男：セチリジン円形錠の慢性蕁麻疹に対する臨床試験、基礎と臨床、28(7)：2163-2173 (1994)
15. 吉田彦太郎、大河原章、石橋康正、原田昭太郎、今村貞夫、山本昇壯、堀嘉昭、田代正昭、小川暢也：セチリジンの慢性蕁麻疹に対する臨床第 III 相試験—ケトチフェンを対照薬とした二重盲検比較試験、基礎と臨床、28(7)：2131-2145 (1994)
16. 荒田次郎他（吉田彦太郎、山田正男、大野まさき、村山史男、鳥山史、清水和宏）：浅在性化膿性疾患に対する S-1108 と cefaclor の二重盲検比較試験成績、Chemotherapy, 42(3)：326-345 (1994)
17. 荒田次郎他（吉田彦太郎、小出隆）：皮膚科領域における SY5555 後期臨床第 II 相試験成績、Chemotherapy, 42(S

-1)：503-522 (1994)
18. 吉田彦太郎、大河原章、石橋康正、原田昭太郎、今村貞夫、山本昇壯、堀嘉昭、田代正昭、小川暢也：セチリジンの慢性蕁麻疹に対する至適用量の検討、基礎と臨床、28(7)：2107-2129 (1994)
19. 吉田彦太郎、大河原章、石橋康正、原田昭太郎、今村貞夫、山本昇壯、堀嘉昭、田代正昭、：セチリジンの湿疹･皮膚炎郡、痒疹群および皮膚ｇ痒症に対する臨床試験、基礎と臨床、28(7)：2147-2162 (1994)
20. 吉見圭子、伯川純一、本間喜蔵、西本勝太郎：長崎地方のスポロトリコーシス118例の統計的観察―1951年から1992年までの集計―、西日皮膚、56(3)：518-524 (1994)
21. 広瀬寮二：顔の皮疹は皮膚癌の可能性あり、長崎県医師会報、582：49-51 (1994)
22. 吉田彦太郎：アトピー性皮膚炎最近の話題―治療を中心として―、田川医報、第89号：32-34 (1994)
23. 鳥山史：生涯教育シリーズ壊死性筋膜炎、長崎市医師会報、28(4)：7-9 (1994)
24. 久木田淳他 (吉田彦太郎)：LAS-90の慢性蕁麻疹に対する前期臨床第II相試験、臨床医薬、10 (suppl. 1)：43-53 (1994)
25. 吉田彦太郎：LAS-90の慢性蕁麻疹に対する後期第II相試験―二重盲検法による用量設定試験―、臨床医薬、10 (suppl. 1)：55-72 (1994)
26. 久木田淳他 (吉田彦太郎)：LAS-90のｇ痒性皮膚疾患 (湿疹･皮膚炎群、痒疹群および皮膚ｇ痒症) に対する臨床試験、臨床医薬、10(suppl. 1)：73-88 (1994)
27. 久木田淳他 (吉田彦太郎)：LAS-90の慢性蕁麻疹に対する長期投与試験、臨床医薬、10(suppl. 1)：89-111 (1994)

B－b

1. 吉田彦太郎、田上八朗、田畑伸子：アレルギー性疾患―皮膚科領域、In Allergy, 1(7)：2-8 (1994)
2. 田中洋一、吉田彦太郎：樹状細胞、特集アレルギーと細胞 (各論) 、アレルギーの領域、1(1)：72-76 (1994)
3. 阿南貞雄、吉田彦太郎：アトピー性皮膚炎発症因子としてのダニ･カビアレルギーとその対策、Fravrance Journal, 94-5：33-38 (1994)
4. 前田啓介、吉田彦太郎：じんま疹、最新医学、49(臨)：556-564 (1994)
5. 前田啓介、吉田彦太郎：アトピー性皮膚疾患の傾向とその治療、Medicament News, 1461：9-11 (1994)
6. 西本勝太郎：新しい抗真菌剤―IV 治療トピックス、臨皮、48：140-143 (1994)
7. 竹中基、吉田彦太郎：内科に必要な新薬の知識 (アレルギー疾患に用いる新薬) フマル酸エメダスチン「皮膚科領域」、臨床と薬物治療、13(2)：97-98 (1994)
8. 宿輪哲生、吉田彦太郎：アレルギー性皮膚疾患に対する副腎皮質ホルモン剤の使い方、臨床と研究、71(1)：72-76 (1994)
9. 吉田彦太郎、張慧敏、鳥山史：71．蕁麻疹―医療今昔物語―学説･診療の変遷―、臨床科学、30(2)：230-236(1994)
10. 吉田彦太郎：レピリナスト―Up・Date 注目の新薬'94免疫・アレルギー、現代医療、26(7)：2263-2267 (1994)
11. 吉田彦太郎：蕁麻疹について―その慢性化機序を中心に―、日本医事新報、No. 3664：13-16 (1994)
12. 吉田彦太郎、山本昇壯：蕁麻疹反応における好酸球浸潤とサブスタンスＰ―対談蕁麻疹治療の最新知見と抗アレルギー剤の今後、Clinic Magazine、８月号：35-38 (1994)
13. 吉田彦太郎：アレルギー性炎症と好酸球の組織傷害性―目でみるアレルギー最新知見第２回―、Mebio, 10(12)：8-12 (1994)
14. 田中洋一、吉田彦太郎：アトピー性皮膚炎の概念と病因論、医学のあゆみ、168(8)：731-735 (1994)
15. 吉田彦太郎：アトピー性皮膚炎、アレルギーの領域、1(7)：792-797 (1994)
16. 田中洋一：第５回国際アトピー性皮膚炎シンポジウムから (リレハンメル)、Pediatric Dermatology, 17(4) (1994)
17. 山本昇壯、吉田彦太郎：アトピー性皮膚炎、Therapeutic Research, 15(9)：3345-3348 (1994)

B－c

1. 前田啓介：蕁麻疹とストロフルス、NEW MOOK 小児科７「小児アレルギー疾患とアレルギー剤」、川戸英彦編、金原出版、pp. 77-80 (1994)
2. 田中洋一：ランゲルハンス細胞とアトピー性皮膚炎、アレルギー性炎症性疾患―新たなアプローチ、黒沢元博、宮地良樹編、先端医学社 (東京)、pp. 321-330 (1994)
3. 田中洋一：食物・ダニアレルギーとアトピー性皮膚炎、アトピー性皮膚炎病態と治療、西岡清編、医薬ジャーナル社 (大阪) 、pp. 64-73 (1994)

B－d

1. 吉田彦太郎：アトピー性皮膚炎の難治化に関する研究、平成５年度厚生省アレルギー総合研究事業研究報告書、pp.

181-184 (1994)
2. 前田啓介、岡田茂、竹中基、松下泰三、山本憲嗣、田中洋一、阿南貞雄、吉田彦太郎：ダニ抗原貼布試験の標準化、平成5年度厚生省アレルギー総合研究事業研究報告書、pp. 201-204 (1994)

原著論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	合計	総 計
1994	5	0	0	0	5	3	27	17	3	2	49	54

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合 計	B-a	B-b		合 計	総 計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
1994	0	1	3	4	17	5	90	112	116

原著論文総数に係る教官生産係数一覧

	欧文論文総数 / (論文総数)	教官生産係数 (欧文論文)	SCI掲載論文 / 欧文論文総数	教官生産係数 (SCI掲載論文)
1994	0.093	0.625	0.600	0.375

Impact factor一覧

	Impact factor	1教官当りImpact factor	論文当りImpact factor
1994	35.067	4.383	11.689